

ニユースの航跡

(4)

大きな口を「へ」の字に曲げて
「敵地に乗り込む気がある」と寺
本知事が初察した。二月十二日か

◆ 院内では知事

政權交代

手をゆるめず、自由
労組や県職組は深刻
化した失業問題と安
保改定反対の大きな

政權交代のこんなあらしのなかで、寺本知事は孤軍奮闘？ 当然

つてかばつをモットに猪突
猛進した。しかし寺本ブームはつ
いに起きなかつた。結局はこの一
年が「建設のための破壊と地なら
し」の途終つてしまつたから
のようだ。人事と機構と行政の三
格させられた。桜井県政の「喫



ものが何人もいる。しかも一般職、こんなことは、桜井前知事時代に
國の大煽動はまた宿願として残はあまりないことだつた。自民党
と社会党の上にうまく乗つかり、
されたままだ。

割で課長のイスを取りかえられた。あった。

になった。新部長には「第二選手
 の悪評が与えられ、人事の刷新は
 いいが、県庁の幼稚園化は困る」
 と議会側からも苦情が出た。若手
 課長のなかには、三月に二回の
 議会で「知事に会わせる」とい

建設への地ならし

水俣病 陣頭指導が奏功

面から桜井色は一応抜きとられたが、それに代わる寺本県政全体の、とくに事業面での堂友の前進は、ことしは出ずじまいに終わった。いうなれば、寺本知事になったからといつて、県民のフトコロ具合が急によくなったわけではなかった。

◇寺本知事が最初に手がけた任事は、選挙公約にもとづく人事の刷新だった。よくいえば十年選手、悪くいえば万年部長の桜井前平、と、いわれた企画部は大ナタをふるわれて企画室に格下げされた。人事の「天井」がボツリあき、機構が変わつて、三月から十二月までに係長級以上の人事異動が九回も行なわれた。動いたのは延べ四百二十六。役付きのポストは県庁と出先機関に約七百もあるから、その半分以上が動いたことになる。

人事の天井があき、部長長が若がえったのはいいが、人材がいなくて知事を追っかけ回した。六月県政対策も知事一人、議会答弁も知事が大部分を引き受けた。自由労組と県職組も担当部長を相手とせず、知事との直接談判を求め、本力ラーを出して来るだろう。

◇寺本知事の陣頭指揮が功を奏

金庫余裕金の相互銀行預託問題、
国体に備えての県営藤崎球場問題
などが年内にバタバタと解決し
た。寺本県政はこれらの難問題

桜井前知事(右)から事務引きつぎをうける寺本新知事(左)中
央は水上副知事(2月12日知事室)

松井前知事(右)から事務引き継ぎ
 矢は水上副知事(2月12日知事室)

.....